

2015年度 東京工業大学
社会と民主主義
第9回 プレゼンテーション②

2015年12月14日(月)

担当者: 西田亮介

ryosukenishida@gmail.com

中間課題

- 総務省・文科省, 2015, 「私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために」. の各自の担当箇所について、1.)要約2.)利点と課題、論点、展望等 を3つ以上の参考文献を用いながら論じよ。
- 文字数: 2000字程度
- 締切: 12月28日(月)朝8:00までにOCWiにて提出。PC不調等がないように、余裕をもって締切順守で提出すること。
- 剽窃、不正については学内ルールに則り、厳しく対処する。

今週のグループワーク①

- 4人1組を作成。
- それぞれが簡潔に自己紹介(氏名、学年、所属、関心)
- 各グループで、配布資料に関して、以下をとりまとめ報告する。
 - 配布資料を読み、現代日本政治の情報発信手法がもつ長所と短所を、理由とともに、グループで議論し、発表する。

主権者教育の現実とトレンド③(資料)

主権者教育について学ぶ高校生向けの副教材が全国の高校に配布された。学校での実施が急がれるが、「何から始めたらいいのか」と悩む教師は少なくないようだ。元公立高校教諭で、副教材の作成に協力した明治大文学部の藤井剛特任教授に、2コマで教える主権者教育の方法を聞いた。【五十嵐英美】

—記者(以下略) 主権者教育の副教材は解説編、実践編合わせ100ページ以上。どこから手を付けたらいいでしょうか。

藤井氏(以下略) つまみ食いでもいいんです。全部やるのは時間的にも難しい。まずは「これができる」というところ、自分の学校や学級、自分の教科に合った項目を選んでやってみましょう。

—おすすめは？

模擬選挙です。市区町村の選挙管理委員会に出前授業に来てもらって、1コマで架空の市長選をやってみましょう。

力量がある学校なら、市長選の立候補者を生徒にやらせます。市長としての政策を考えて発表し、ほかの生徒から質問を受けて投票する。1人で政策を作るのが難しいなら、5人ぐらいのグループで作り、そのうちの1人が市長として立候補する。3グループ作って、3人立候補するといいですね。投票や開票の事務作業も生徒たちが担うと、「やった」という気になります。

—模擬選挙の授業の目的は？

「18歳選挙権 | 2コマで教える主権者教育(上) - 毎日新聞」
(<http://mainichi.jp/articles/20151207/org/00m/100/010000c>)より引用。強調、
下線は引用者による。

主権者教育の現実とトレンド④(資料)

生徒たちは「選挙は面倒くさいもの」と思っています。でも、私たちが実際の選挙で投票に行くと、数分で終わりますよね。それを生徒に実感してもらうのです。「なんだ、選挙ってこんなに簡単にできるんだ」と。小学校、中学校でも模擬選挙をやしてほしい。

—小学生でもできますか？

もちろん。一番分かりやすいのは、学校の隣に空き地があり、そこに何を造るかを政策として考える。以前、ある小学校でやった授業ですが、外部の大人に協力してもらって候補者を3人立て、それぞれ公園、スポーツ施設、ショッピングセンターを造ると主張し、5分ずつ演説する。子どもたちは誰がいいか自分なりに考えます。

模擬選挙の授業の目的は、選挙を体験することです。「投票先を選ぶって難しくないんだ」ということを分かってもらう。まずはやってみることが大事です。

—ほかに、副教材の中で取り組みやすいのは？

例えば、模擬請願(実践編・第4章)はすぐにできると思います。市区町村の議会に請願してみようという取り組みです。公民の授業でなくても、ロングホームルームでできるでしょう。

家族と話して、身近な「困っていること」を五つ持って来させます。例えば、週2日のゴミ収集を週3日に増やしてほしいとか、公民館の統廃合をやめてほしいとか、道路を補修してほしいとか。教室でグループごとに要望を出し合い、絞り込み、クラスの要望として三つに決め、要望書を作って市区町村の議会事務局に持って行きましょう。

請願はどこの事務局でも受け付けてくれます。生徒たちは「なんだ、身近なところに政治ってあるんだな」と思うでしょう。安全保障関連法や尖閣諸島の問題だけでなく、こうした身の回りのことが政治のスタート。自分の学校や学級の状況に合わせて、できるところから始めることです。

「18歳選挙権 | 2コマで教える主権者教育(上) - 毎日新聞」
(<http://mainichi.jp/articles/20151207/org/00m/100/010000c>)より引用。強調、
下線は引用者による。

主権者教育の現実とトレンド⑤(資料)

- 模擬選挙を体験した後、高校や中学で主権者教育をどう進めたらいいのか。元公立高校教諭で明治大学文学部の藤井剛特任教授は、投票先を選ぶヒントを集めたワークシートを使って、1時間授業することを提案する。【五十嵐英美】
- --記者(以下略) 前回のお話では、まず模擬選挙をやってみようということでしたが、次は？
- 藤井氏(以下略) まず模擬選挙、次に各政党のマニフェストの比較をやりましょう。模擬選挙をやったからおしまいではなく、現実の政党の政策を考えるとところまでやってほしいのです。
- --なぜですか？
- 若者たちが投票を棄権する理由の一つに、「各政党の言っていることが分からない」というのがあります。若い人は潔癖症だから、すべての政党のマニフェストを理解できないと投票に行ってはいけないと思っているんですね。しかし、大人だって、完全に分かって行っているわけではないし、各党の政策を見比べて投票していることを分かってほしい。それを見せたくて作ったのが、この「Work Sheet 18歳選挙権に向けて -読んで考えて整理しよう-」です。
- --対象の学年は？
- 中学3年から高校生まで、1時間の授業で使うことを想定しています。

「18歳選挙権 | 2コマで教える主権者教育(下) - 毎日新聞」
(<http://mainichi.jp/articles/20151207/org/00m/100/018000c>)
より引用。引用、強調は引用者による。

主権者教育の現実とトレンド⑥(資料)

- 実際の選挙で困らないように、投票先を選ぶ簡単な方法論や投票用紙の見本を載せています。各国の選挙権年齢の一覧表や年代別投票率のグラフを読み解きながら空欄を埋めていき、最後に2014年12月の衆院選の各党マニフェスト要約(毎日新聞を基に作成)から、どの政党の政策に自分の意見が近いのか、生徒に選ばせます。
- 自分の興味のあるテーマ、重要と思うテーマを選び、各党がどのような政策を提案しているかチェックします。例えば「経済・財政」のところを縦に見ていき、自分の意見に近い政策に「○」、自分と違う政策に「×」をつけてみる。「○」の一番多い政党が、「とりあえずあなたの投票すべき政党なんだよ」と、伝えます。
- 生徒が「こうやって選べばいいの」「簡単じゃないか」と思ってくれればいい。実際の選挙で投票に行く手助けになるでしょう。
- ー公民の授業でやるのがいいですか？
- 授業でも、ホームルームでもいいです。模擬選挙をやった後に使ってほしいと思って作りました。
- 主権者教育は投票率を上げるためにやるわけではありません。主権者を育てることが目的です。各党の言っていることを理解する力や討論する力、比較する力、そういう力を総合的に身につけなくてはいけないのです。
- 文部科学省が作った高校生向けの副教材の中にも、「ディベートで政策論争をしてみよう」「地域課題の見つけ方」などの実践例が載っています。身の回りで起きたことに「あれ、おかしいぞ」とか、「ここどうにかしなくちゃ」と思える力をつけてほしい。もっと言うと、学校教育の根本はそこです。主権者として、公民として、生きる力を養う。今こそ原点に戻りましょうというのが、主権者教育の目的なのです。

「18歳選挙権 | 2コマで教える主権者教育(下) - 毎日新聞」
(<http://mainichi.jp/articles/20151207/org/00m/100/018000c>)
より引用。引用、強調は引用者による。

※プレゼンテーションについて補足

- 時間: 10分 + 質疑応答10分
- 内容の要約
- 利点と欠点
- + α (新情報等を加えること)
- 引用等をきちんと行い、剽窃にならないように留意すること。
- 各グループのリーダー(クラスの名簿を取りまとめた人)が、最後にプレゼン資料を授業後、西田に送付すること。

割当(12月7日更新)

- (予定 11月30日) <はじめに> + 有権者になるということ: 1班、2班
- (予定 12月7日) 第2章 選挙の実際: 2班、3班、~~4班~~
- (予定 12月14日) 第3章 政治の仕組み: 3班、4班、5班
- (予定 12月21日) 第4章 年代別投票率と政策: 6班、7班
- (予定 1月4日) 第5章 憲法改正国民投票: (...以下、実践編に続く)

今週のQuiz

- 今日の配布資料にもとづき、現代政治を、社会はどのように監視していけばよいか、また、それは可能かという点について、理由とともに、500字程度で論じ、OCWiにアップし、次回持参せよ。